



YCM かわら版 Vol. 5 では6月に開催された総会の報告や研修、その他、取り組み等をご紹介します。

令和7年度YCM総会開催



令和7年6月25日（水）に、横浜市社会福祉センターホールにて、「令和7年度一般社団法人横浜市介護支援専門員協議会 社員総会及び基調講演」を無事に終えることが出来ました。

まずは、開催に至れたこと、会員の皆様に心から感謝申し上げます。

当日は数多くの皆様が参加され、盛大な総会及び基調講演が開催出来ました。

（次ページへ続く）



前半の総会では、YCM 全体の昨年度の活動報告と今年度の活動計画、会計報告、各委員会の活動報告と活動計画を発表させて頂きました。

今年度は、理事の改選が行われました。賛成多数で可決され、代表には元町ケアサービス加藤由紀子氏が継続で就任、理事には在宅看護センター横浜ケアステーション佐藤直人氏、あおぞらステーション有坂太志氏が新たに就任となっております。



会場の様子

福井 寛之 先生

後半の基調講演では、福祉の応援団長youtuber福ちゃんこと、福井寛之先生を講師にお招きしテーマは「笑門来福」と題し、明日から誰でも実践できるセルフケア、心地よいチーム作り、ケアマネジャーの価値について御講義して頂きました。

ケアマネジャーを取り巻く状況は業務量の増大や制度改正など厳しい側面が少なくありません。ご利用者様を支える為には支援者である私たちがまずは、満たされゆとりを持つ必要がある事、自分を大切にする事で前向きなマインドを持つことができ、利用者様も含め、ケアに関わる皆が、笑顔になれる実践的な思考や方法論を学ばせて頂き大変、気づきの多い貴重な機会となりました。

釜石との交流

東日本大震災から 15 年が経った 7 月、今年も釜石へ行ってきました。

私自身今回で 15 回目の訪問となります。釜石へは震災以降、毎年訪れ現地のケアマネジャーの方々や介護業界の方々と情報交換や交流を続けています。

2011 年当時、私は当会の前身である横浜市介護支援専門員連絡協議会（任意団体）の代表を務めておりました。

当時、会員の中から「自分たちも何かできないか？」「何かすべきではないか？」との声が上がリ自然発生的に有志の会が発足され桜木町駅前での街頭募金を行いました。縁あって岩手県介護支援専門員協会の神崎代表（当時）から釜石の方が困っているとお話しを受け、釜石広域介護支援専門員協議会齋藤裕基代表（当時）を通して釜石への支援、釜石との交流が始まりました。

実際に現地へ赴き被災地の視察や災害時の対応に対する情報交換や研修への参加。釜石の方をお招きして市内でのチャリティーイベントなども開催しました。支援は応援へと形を変え、互いの想いを紡ぎながら淡い交流をこの先も続けていきたいと思っています。

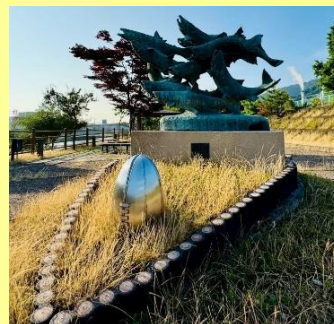
毎年泊まるホテルの裏にお寺があります。私は毎年そのお寺へお参りするようになっています。お参りの際には心の中で「本来であればあのような未曾有の大災害が起ころなければよかった。災害が起ころなければ、釜石の方々と出会う機会を考えたことがなかった。

（次ページへ続く）

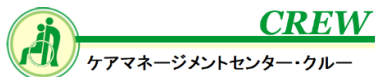


しかしあのような災害が起きてしまい、それをきっかけとして釜石の皆様と出会い、こうして楽しい時間を持つことができています。」と振り返ったりしています。

この縁の下には多くの方の犠牲と多くの悲嘆があります。そのことを決して忘れることなく来年も再来年も釜石へ通おうと思います。



協賛団体のご紹介 (合計 32 団体)



仙台市若林区にて横浜の実践を紹介

2024年6月13日、仙台市若林区内地域包括支援センター主催の研修がZoomで開催され、当協議会から加藤代表、制度対策委員の小松氏、横浜市高齢在宅支援課の保健師が登壇しました。研修では、横浜市と一緒に作成した「ケアマネジャーの業務と役割」の作成に至る経緯や、現場での活用事例を紹介しました。参加した仙台市のケアマネジャーからは、「できないことを伝え他につなげる、代替案をだす重要性」や、「ケアマネジャーだけがシャドーワークを担うのではなく、保険者と連携すべき」「研修会で講話いただいた内容を今後の業務に活かしていきたい」等々の感想をいただきました。「リーフレットがあると説明しやすい。仙台市も作成してほしい」「今後も横浜市と関係を保ちたい」との声もあり、今後は地域を越えた連携をしていきたいと思っています。

(参考)

研修会についてよかった点・勉強になった点（一部抜粋）

- ・困っていることの共有化
- ・出来ない事を伝え、他につなげる、代替案を出す重要性
- ・行政・他機関・他ケアマネとの協力・連携の重要性
- ・行政への提言・要望書を出すことが大切



ゴーオン株式会社



笑美面



人にやさしい住まいを

サンライトホーム



横浜市訪問介護連絡協議会



元町ケアサービス
TEL 045-841-6769

motomachi
care
service

あなたの身寄りプラス⁺



社会福祉法人
泉正会



横浜に、より良い在宅看護を。

yns

一般社団法人 横浜在宅看護協議会



ひとはな

【瀬谷ケアマネットの取り組み】

ケアマネジャー支援体制に関する要望書 提出

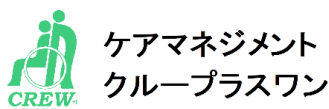
— 横浜市瀬谷区から始まった署名活動 —



横浜市内ではケアマネジャーの人材不足が深刻化し、要介護認定を受けても担当者が決まらず、介護サービスを利用できない“待機者”が増えています。

背景には、介護報酬や賃金の低さ、業務負担の多さ、資格更新研修の負担といった課題があり、それにより居宅介護支援事業所の閉鎖や、要介護認定者数に対してケアマネジャーの数が追いつかないという実態が生まれ、地域の介護支援体制が深刻に脅かされています。

(次ページへ続く)



「このままでは地域の介護が立ち行かない」——そんな強い危機感のもと、私たち横浜市瀬谷区のケアマネジャーは、瀬谷ケアマネットを起点に署名活動を開始しました。仕事の合間を縫い、一人ひとりに丁寧に思いを伝えながら要望書と署名を集めた結果、横浜市内から8,546筆、市外から796筆、合計9,342筆の署名が集まりました。この署名は、吉田真次 厚生労働大臣政務官に直接手交し、現場の切実な声を国へ届けました。

吉田政務官からは「現場の声を伺いながら、10年後を見据えた政策を着実に進めてまいります」との力強いお言葉をいただいています。

この署名活動は“終わり”ではなく“始まり”。

ケアマネジャーの価値と社会的地位が正当に認められ、“地域のケアマネジャーのため”に、“10年後のケアマネジャーのために”、“憧れる仕事”となるよう、私たちはこれからも声を上げ続けます。

最後に、この活動にご協力いただいたすべての皆様に、心より感謝申し上げます。ご賛同くださったお一人おひとりの署名が、現場の未来を切り拓く力となりました。

本当にありがとうございました。

瀬谷ケアマネット

YCMでは今回のように横浜市内各区での活動も紹介していきたいと考えております。広報誌に活動紹介等の掲載のご希望がありましたら、事務局までご連絡ください。



港南区ケアマネ連絡会

ふじけあ 居宅介護ステーション



よこみち（会員コラム）

『都筑区より遥かなる時を超えて』 ペンネーム：HiT

私が活動しているエリアには大塚・歳勝土遺跡公園や横浜市歴史博物館がある都筑区が含まれています。そんな歴史深い都筑区の土地で生まれ育ち、今も暮らすその方から語られたお話から始まります。

数年前のとある日、いつも通りのモニタリング訪問…の予定でした。

「裏の竹林の土留め工事を依頼したら、土の中から刀が出てきてよう。」

なんですか、その魅力的なお話！

個人的な興味がムクムクと沸き上がり、引き込まれ何うと、工事を始めようとした時に発掘され、その後が発掘調査の対象となり、半年以上、土留め工事が中断になるという事態に見舞われたご家庭の災難（早く工事をしないと、天災で土砂崩れを起こしそう、との談）のお話でした。



『深鉢形土器』

訪問を辞した後、今日に至るまで、折に触れて資料を探しました。『折本貝塚』『深鉢形土器』『折本西原遺跡』『歳勝土遺跡』、私が知るのはほんの一部。歴史のお勉強の出来事が目の前にありました。

縄文時代、弥生時代に確かにそこで生活をしている方がいて、刀→民族間の主張（と勝手に思っています）があり、現代、縁がありその地で話を伺う、何という壮大な時間の流れに自分が存在しているのか！

あなたの知るその町にも、あなたが体感する歴史がきっとあるのではないのでしょうか。



『折本貝塚』

よこみちとは…

よ（Y）こ（C）み（M）ち（team）＝YCMと仲間（team）が一緒になって盛り上げていきたいという気持ちから、コラムのタイトルにしました。

発行・お問い合わせ先

一般社団法人横浜市介護支援専門員協議会

（元町ケアサービス内）

TEL : 045-641-3769

e-mail : ycm-socio@ycm2021-kyogikai.jp